

「白山中学校区 教育ミニ集会」が行われました

8月24日（火）15:00～16:30

来年度から我孫子市でスタートする「学校運営協議会制度」（コミュニティースクール）。保護者・地域・学校が一体となって子ども達を育てていくことは、すでに浸透していますが、これまで以上に3者の力を結集していくこととなります。

今年度は、コロナ対策としてリモートで集会が行われました。教職員は白山中・四小・一小それぞれの学校からZoomで参加。保護者や学校評議員、地域支援コーディネーターの方々もそれぞれの学校やご自宅からご参加いただき、白山中学校区のコミュニティースクール（CS）をどのように築いていくかを考えました。

講話 「コミュニティースクールについて」

千葉県教育庁教育振興部生涯学習課 主査 篠原 明 様

CS…社会総がかりでの教育を実現していく

委員は権限を持ち、合議体として学校の応援団となる

メリット 学校・家庭・地域でビジョンが共有できる

人が変わっても協働体制をそのまま継続していける

教職員の負担軽減につながる

→それぞれの立場で主体的に地域の子どもの成長を支えていく

小中一貫教育の推進のために有効的

<グループ協議での意見>

- ・今までの地域との関わりがある活動を継続できるようにしていきたい。
- ・コーディネーターの方を通して、人材の紹介をしていただけたら。
- ・学校と地域・保護者の方と役割分担ができたらよい。
- ・地域に学校の活動を開示していく。
- ・学校は何を地域に求めていくのかを明らかにしていく。
- ・人手が足りない場面で保護者や地域の方にお手伝いいただけたら。
- ・学校と地域をつなぐ窓口が一本化されるとよいのでは。
- ・地域の方に町の良さをたくさん教わりたい。
- ・学年だより等で学習内容を知りたい。懇談会は大切な共有の場になる。

- ・学校内だけでなく、地域でも挨拶が広がるとよい。
- ・地域に貢献するという視点を持っていけたら。
- ・協力したいという気持ちがあるが、今はコロナで難しい状況もある。
- ・何をどのようにしたら良いかがわからない。土台がない状況への不安がある。
- ・コーディネーターの数を増やすなど必要か。
- ・小中一貫教育を生かした活動をしたい。
- ・今までの学校支援地域本部事業を土台にすればいいのでは。
- ・ボランティアの方にもネット環境が必要。
- ・コロナが落ち着いたらもっと連携ができるか。今、コロナの中ではどのような取り組みが大切なのか考えたい。

講師の篠原先生のお話を聞いた後、グループで様々な話が出ました。「地域と共にある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を行っていくことで、学校と保護者、地域が連携・協働し、子ども達を育てていくのだと考えることができた貴重な時間となりました。

ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

